

3章 考えて話し合ってみよう

保育者は日常の保育の中で、子どもに寄り添い、子どもたちの姿や状況を手がかりにして環境やかかわり方を工夫しています。3章では、保育の一場面からその後の展開や援助をイメージしたり、方向性を考えたりするきっかけとなるように構成しています。

この章は、表裏2ページで1セットとなっています。

○「場面1」…事例に至る背景と事例のきっかけになる場面

○この場面の子どもの姿から、この後の展開について、考え合う視点

1) この場面をどのように捉えるか

- ・子どもの興味・関心や欲求などを捉えてみよう
- ・子どもの体験していることを捉えてみよう

2) どのような体験に展開していくか

- ・いろいろな展開を考えてみよう
- ・自園の子どもをイメージして考えてみよう
- ・具体的な対象児をイメージして考えてみよう

3) 子どもに寄り添う保育者の関わりとは

- ・子どもの次の行動や言葉を待つためには
- ・自園の子どもをイメージして子どもの思いを考えてみよう

4) そのためには、どのような環境が必要か

5) どのような方向性を考えて保育を展開していくか

- ・子どもの変容や成長に繋がる体験を考えてみよう

○「場面2」…その後の様々な展開

この場面をご覧になって、様々なことを感じられると思います。

保育者として自分の感じたことを大切にしながら、自園の保育でどう活かせるかなどを考える機会になることを願っています。

※ 各事例の最後の  **ポイント** は、財団担当者が書いているものです。

「科学する心を育てる」ことに繋がる環境や支援を考える際のポイントを示しました。